

# 大きい空間と小さい空間を同時存在させる

指導教員 吉松秀樹教授 印

2BEB2116 本井 加奈子

## 1. 大きい空間はそわそわする。

規模の大きい建築には、吹抜けなどの大きな空間がある。そこには、ベンチが設置してあり休憩スペースとして使われていることが多い。ただそこに座るとそわそわとしてしまう。人が滞在するための空間のスケール、プロポーシオンではないからである (Fig. 1, 2)。



Fig. 1 カフェとして使われる

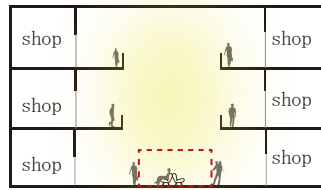


Fig. 2 人が滞在するには大きすぎる空間

## 2. 日本建築から見る人が滞在する空間

日本では昔から床面積に対する天井高が決まっており、現在でもその寸法は守られている (Fig. 3)。それは、人が滞在するのに最適なプロポーシオンであるということを示している。ここでは、そのプロポーシオンの空間を小さい空間、そこから大きく外れている空間を大きな空間と定義する。

	4.5 畳	6 畳	8 畳	10 畳
京間 天井高	2.28m	2.40m	2.48m	2.58m
江戸間 天井高	2.25m	2.35m	2.45m	2.5m

Fig. 3 京間、江戸間の床面積に対する天井高

## 3. 壁の操作による空間の変化

人は視覚により空間を把握していることから、壁の操作により大きい空間にしながら、小さい空間を感じる事が出来ると考えた。

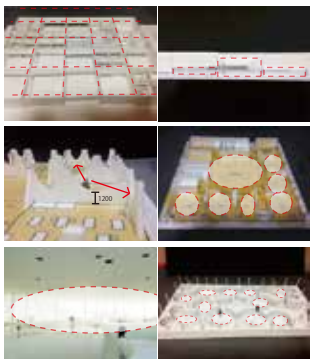


Fig. 4 分析

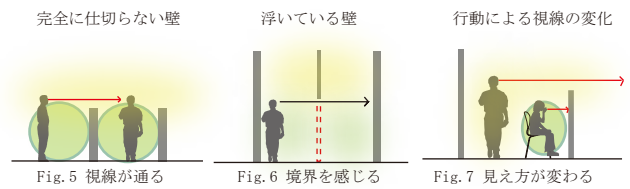
構の郭/TNA  
グリッド状に引かれた、たれ壁により大きな空間が小さく区切られているように感じる。しかし、視線は通るので大きい空間を感じる事が出来る。

ゆたか幼稚園 / 菅原大輔  
空間を区切る壁の上部に半円の開口をもうけることで、そこから室内全体を見渡すことが出来、大きな空間を感じる。開口の高さにより大人と子供で空間の認識も変わる。

LOTUS BEAUTY SALON / 中村拓志  
高さ 1400 の丸みを帯びた腰壁によってお客さんには個室に感じるように感じられ、立って作業しているスタッフには広々とした空間に感じられる。その人の行動により感じる空間の大きさが変化する。

## 4. 大きい空間と小さい空間を同時存在させる

大きい空間と小さい空間を同時に存在させる手法として以下の3つが挙げられる。①完全に仕切らない壁 (Fig. 5) ②浮いている壁 (Fig. 6) ③行動による視線の変化 (Fig. 7)。これらの方法を用いて大きい空間と小さい空間を同時存在させていく。小さい空間は日本建築のプロポーシオンに寄せる。



## 5. 大きい空間と小さい空間のある家

大きく開放的な空間でありながら、小さな空間のある家を提案する。壁の操作により人がくつろぐ時に小さい空間が現れる。 (Fig. 8)



Fig. 8 ダイアグラム

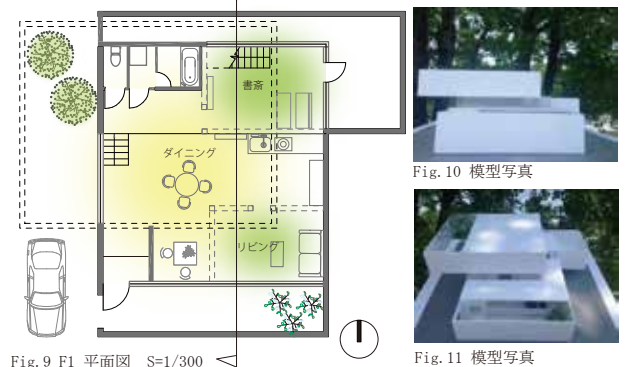


Fig. 9 F1 平面図 S=1/300

Fig. 10 模型写真

Fig. 11 模型写真

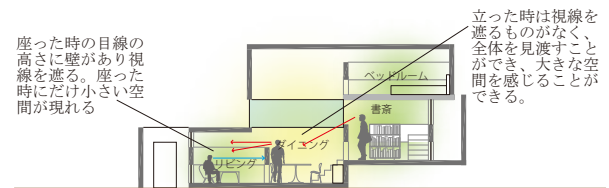


Fig. 12 断面図 S=1/300